

震災後に仮設商店街が果たした役割に関する研究

-いわき市浜風商店街を対象として-

都市計画専攻 201111280 戸田 大暉

指導教員：糸井川 栄一 教授

1. 研究背景・目的

1.1 研究背景

2011年に起きた東日本大震災において、東北地方の沿岸部を中心に壊滅的な被害が生じ、人的な被害だけでなく商業機能も甚大な被害を受けた。このような状況において独立行政法人中小企業基盤整備機構（以下、「中小機構」）により、各被災地に仮設商店街が建設され、事業主の営業再開のきっかけになったといわれる。さらに、住民に対しては、仮設商店街が買い物環境の改善、さらには再会の場、情報交換の場としての役割を果たしている可能性がある。しかし、「河北新北^[1]2014年2月15日」によると、現在は利用客が減少傾向にあり、事業者の再建も困難であると述べられている。つまり、時間の経過とともに復旧や復興などが進展し、住民の住環境の改善に伴う買い物のニーズの変化に仮設商店街が対応できていないと考えられる。このような状況において震災後に、住民に対して仮設商店街が果たした役割を時系列的に調査することは重要であると考えられる。

1.2 既往研究

東日本大震災後の仮設商店街を対象とした研究を以下にあげる。寺澤ら^[2]は、岩手県沿岸南部における仮設商店街10商店街、また、JR大船渡駅周辺における3つの仮設商店街4商店街の個別仮設店舗を含む仮設店舗群の計77店舗のうち34店舗を対象に、仮設商店街が商業復興において果たす役割を考察し、仮設商店街の仮設期における意義と本設空間に必要となる要素を明らかにしている。近藤ら^[3]は、気仙沼市鹿折地区に位置する仮設商店街を対象に仮設商店街からコミュニティがどのように形成されているのかに着目し、震災復興における仮設商店街の役割を調査している。しかし、これらの研究では仮設商店街の果たした役割を住民側の視点で時系列的に調査したものはない。

1.3 研究の目的

本研究では、震災直後から3年を経た現在までの期間に住民が仮設商店街に対してどのようなことを求めて利用していたのかについて把握する。そして、住民側の視点で仮設商店街の果たした役割を時系列的に明らかにし、今後の震災時における仮設商店街の整備のための一助とすることを目的とする。

2. 研究方法

2.1 対象地の選定

対象地は、福島県いわき市の北東部に位置する久之浜・大久地区にある浜風商店街（図1）とする。この地区は、沿岸部に位置していることから津波による甚大な被害が発生し、

沿岸部にあった約40の商店が被災した。また、人的被害は表2に示したとおりである。

このような状況において、いわき市、久之浜町商工会が中心となって中小機構が実施する「仮設施設整備事業」を活用し、2011年9月3日に全国初の仮設商店街「浜風商店街」の建設が行われた。この浜風商店街は2011年に開業したため、時系列的に分析が可能であり、公共主体による仮設商店街という特徴があることから、今後の仮設商店街整備のための知見となると考え、この地区を対象とした。



図1 浜風商店街位置 [4][5]

表1 久之浜・大久地区の概要 [6]

人口 (H26.4)	4,839人
世帯数 (H26.4)	1714世帯
面積	52.38km ²
高齢化率 (H26.4)	約34%

表2 久之浜・大久地区の人的被害 [7]

震災前の人口	5,719人	H23.2 住民基本台帳
震災前の世帯数	1,891人	H23.2 住民基本台帳
死亡者数	53人	H24.8 現在
行方不明者数	13人	H24.8 現在
避難世帯数	641世帯	H24.8 現在

2.2 プレ調査

(1) 浜風商店街の概要

表3 浜風商店街の概要

場所	久之浜第一小学校の校庭の一部
開業日	2011年9月3日
建設費用	46,305,000円
施設数	店舗：8店舗、事業所：2事業所
業種	食料品、食堂、駄菓子屋、衣類店、電気屋、理容店、設計事務所、情報館、商工会

(2) 浜風商店街の利用状況

浜風商店街の開業直後から現在における、利用状況などを把握するために、住民18名にヒアリング調査を行った。

表4 住民へのヒアリング調査結果

買い物環境について
<ul style="list-style-type: none">震災直後における買い物環境に関して、交通手段のない高齢者が主に不便を感じていた。開業直後は、買い物目的で利用している人が多かった。しかし、現在は買い物環境に不便を感じ、他店との併用を行っている者が多かった。このことから時間が経過していく中で、住民のニーズが変化して行ったと考えられる。
買い物環境以外について
<ul style="list-style-type: none">開業直後は再会の場所や情報交換の場所として利用されており、安心感が得られたといった声もあり、震災直後、仮設商店街が住民の心の支えの場所となっていたのではないかと考えられる。現在においても、交流目的で仮設商店街に訪れている者もあり、そこで交流することで元気がもらえるといった声があった。このことから仮設商店街で交流することが住民の活力に繋がっていると考えられる。

2.3 浜風商店街の利用状況に関するアンケート調査概要

浜風商店街の果たした役割について明らかにするため、久之浜・大久地区に居住する全世帯の方を対象に2014年11月23日～12月23日にアンケート調査を実施した。配布票数1,180票、回収票数(率)327票(27.7%)である。

3. 結果

3.1 仮設商店街が住民の買い物環境に与えた影響

浜風商店街の買い物利用客に関して、開業直後及び現在ともに約4割程度であり、開業直後と現在であまり変化が見られなかった。しかし、利用頻度に着目すると、現在は、開業直後よりも減少傾向にあることが明らかとなった。また、浜風商店街における、開業直後の買い物環境の利便性について、便利だと感じた人は、約2割程度しかおらず、「不便を感じた」、「どちらともいえない」という回答が大半を占めている(図2)。これらのことから、仮設商店街の建設が住民の生活利便性の大幅な向上にはつながらなかったと考えられる。

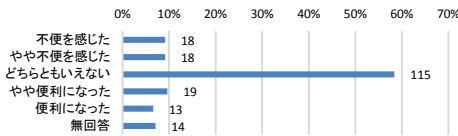


図2 開業直後の買い物環境の利便性

3.2 仮設商店街が住民の買い物環境以外に与えた影響

浜風商店街は、開業直後から現在において、買い物という本来の役割だけでなく、再会の場、情報交換の場所としての役割を果たしているということ(図3)、また、住民の心境の変化にも影響を与えているということが明らかとなった(図4)。

そこで、どのような要因が開業直後及び現在の心境に影響を与えているのかを明らかにするために、利用目的や利用店舗と心境の変化についてのクロス集計を行った。

利用目的と心境の変化との関係に着目すると、開業直後は、知人の安否などに関する情報交換を行うことが住民の不安を和らげていた可能性があることが明らかとなった(図略)。また、現在は、原発情報など地域に関する情報が住民の不安を和らげるきっかけに影響を与えている可能性がある。次に、利用店舗と心境の変化との関係に着目すると、開業直後あるいは現在において、飲食店を利用している人は、店主や住民と前向きな話をすることで元気が湧いた人が多い。さらに、商工会を利用している人ほど、情報を得て、不安が和らいだ人が多いということが明らかとなった(図略)。

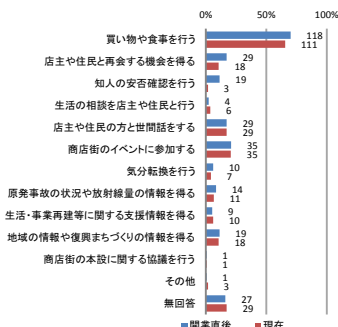


図3 開業直後と現在の浜風商店街の利用目的

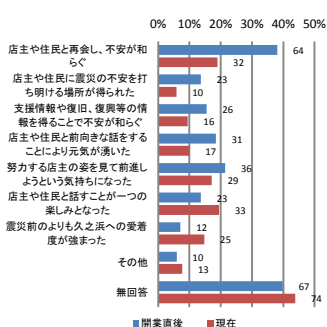


図4 開業直後と現在の心境の変化

4. 考察

浜風商店街ができたことで、住民の生活利便性の大幅な向上には、繋がらなかったが、住民の買い物を行う一つの場所としての役割を果たしていると考えられる。また、このような日常的に買い物を行う商店街に、飲食店のような気軽に交流できるような空間が設置されていたこと、商工会という地域に関する情報を把握した主体が配置されていたこと、イベントに参加する場を継続的に提供していたことにより、仮設商店街が住民の情報交換の場所や交流の場所としての機能を果たし、さらに住民の心境、意識や行動に影響を与えていたと考えられる。

5. まとめ

本稿に掲載できなかった分析結果も含め、本研究の仮設商店街整備のための提言を以下にまとめる。

- 飲食店が住民の交流の場所としての役割を果たし、住民に活力を与えていたことから、住民が日常的に使用する仮設商店街に、気軽に食事や茶飲み話ができるような場所を設置すべきである。
- 商工会で情報を得ていた人ほど不安が和らいだ人が多いことから、商工会のような地域に関する情報を把握した主体を配置することが重要である。
- また、商工会だけが情報を把握するのではなく、買い物客により情報を発信できるように、商工会と商店街の店主が情報共有を行うことにより、より多くの住民に情報を発信することが有効的であると考えられる。
- 仮設商店街で情報を入手することが住民の心境に変化を与えていたこと。また、開業直後に必要としている情報と、現在必要としている住民の情報に変化があることから、住民が気軽に立ち寄れるような商店街で、住民が必要とする情報を発信することが重要であると考えられる。
- 商店街でイベントに参加する場を継続的に提供していたことが、開業直後から現在まで、住民の心境、意識や行動に影響を与えていたことから、イベントを継続的に開催することが重要である。

参考文献

- [1] 河北新報：特集一覧、震災・防災、東日本大震災3年、復興まちづくり (6完) 仮設商店街/戻らぬ客、遠く再建、2014-02-15
- [2] 寺澤草太・饗庭伸：東日本大震災からの商業復興における仮設商店街の果たす役割、公益社団法人日本都市計画学会、都市計画論文集、Vol. 49, No. 3, pp291-296, 2014-10
- [3] 近藤将輝・脇田祥尚・竹内泰・寺川政司・森川真嗣・相澤啓太・中尾謙太・渡部尚見：震災復興における仮設商店街の活動と役割の考察、日本建築学会大会学術講演梗概集、7522, 1119-1120, 2013-08
- [4] 福島県いわき市全体地図：福島県第一原発30km距離圏マップより作成 http://www.webtowns.net/iwaki-map/pdf/iwaki_chiku.pdf (最終閲覧日：2014年11月11日)
- [5] Mapion：福島県いわき市 http://www.mapion.co.jp/m/37.04712389_140.89137806_7/ (最終閲覧日：2014年11月11日)
- [6] いわき市HP：<http://www.city.iwaki.fukushima.jp/tokei/004869.html> (最終閲覧日：2014年11月18日)
- [7] 復興まちづくりのシンボルとなる商業施設「浜風きらら」の計画進行中-福島県いわき市久之浜町-, 1. まちの現状と課題 <http://machi.smrj.go.jp/machi/eastjapan/syuzai/iwaki.html> (最終閲覧日：2014年12月21日)